

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム ゆ う A	評価実施年月日	平成21年 2月 12日
評価実施構成員氏名	村上 那奈子 ・井口恵理子 ・尾藤 寿 ・鈴木 和枝 ・錦川 美千代 ・安立 百合子 ・内山 載子		
記録者氏名	村上 那奈子	記録年月日	平成21年 2月 25日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
○地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	地域において利用者がその人らしくらし、「友・優・悠・遊として生きる」事を盛り込んだ事業所独自の理念を掲げている。		
○理念の共有と日々の取組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	定例会議において、利用者のケアプランの作成検討会やモニタリング、事例検討会で共有しながら職員の理念の浸透を図り、日々その実践に取り組んでいる。		
○家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	地域においては、祭りや記念行事の際に広告を配布してゆう事業所の理念に基づく活動参加を募っている。また毎月おたよりしている内容に利用者さんのくらしと共有するスタッフのかかわりを伝えている。		
2. 地域との支えあい			
○隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	畑で獲れた野菜や漬物を交換し好評いただいています。また漬物の新作情報提供となる場を工夫している。		
○地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	事業所そのものが自治会の役員をして、町内会、班の行事等に役割を持って参加している。		
○事業者の力を活かした地域貢献 6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	主に年間行事の中で夏祭り、収穫祭は広く多くの方の参加をしていただき、飲食を【無料】で提供し利用者と共に楽しい場を工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価の結果や運営推進委員会での意見を前向きに捉え是正している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回程度に実施している。地域の介護事業の位置づけで、地域に期待される介護サービスはどのようにあるかを検討している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	行政(保健福祉課)包括支援センター主宰の連絡球技会に参加し、情報交換等連携を図る。また機会をつくり保健福祉課に出向き意見、提案を申し上げている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	スタッフの研修参加によって、勉強会を実施しスタッフと意見交換をしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	事業所以外の研修会に参加し、その内容で学習会を設けスタッフの意見交換をしている。お互い介護職に携わる者同士が監視している。		
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居にあたって、御家族や利用者様が不安や疑問を抱かないように事業所にいつでも来ていただき対応に応じている、納得していただいた後に契約の運びとなっている。その際双方で契約を持ち説明に行き違いのないように図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
○運営に関する利用者意見の反映 13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日頃の利用者さまの言動を注意深く観て、内容によってカンファレンスで検討し改善に当たっている。		
○家族等への報告 14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ご家族の面会の際または、行事に参加する際に近況(健康状態、金銭等)日頃の様子を報告している。		
○運営に関する家族等意見の反映 15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族からのご意見を率直に言っていたいた折全体の部分は通信で報告し、個人のことにについては、早急に報告している。		
○運営に関する職員意見の反映 16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定例会議を持って、また申し送り後のカンファレンスで話し合いをもうけその日のうちに改善する方法をスタッフに伝える。		
○柔軟な対応に向けた勤務調整 17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の要望によって実施しています。(例えば役場、買い物、床屋、葬儀参列等)		
○職員の異動等による影響への配慮 18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	管理者が中心になって、入居者の心情に把握を出来るだけ努め、対応しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	資格のない方は、資格を得られるようにサポートしています。計画的な取り組みとしては介護新聞、雑誌等を購読し知識にプラスになるように配慮しています。又研修の案内があれば参加しています。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	包括センターでの運営協議会に参加意見交換を実施したり、グループホームの運営協議会に参加しています。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	喫煙場所を提供しています。		
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	スタッフの個人面接・評価を行い、給与の昇給や研修参加によって資格等を持つようにしています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	気軽に相談できる雰囲気づくりを工夫し、いつの時間帯でも対応できるようにしています。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	上記と同様に対応しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談内容によって情報提供し、ご本人が戸惑わないように対応しています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ホームでの雰囲気に慣れていただけるように無料体験サービスで入居者との交流を図る。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	出来なかった事をマイナスに捉えるのではなく、できる事を認め合い本人が安心していただけるように対応しています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	できるだけ、ホームの行事参加に呼びかけご家族、利用者とスタッフは共に生活している状況をかかわりの中(モニタリング等)で理解していただくように努力をしています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族の思い出話を取り上げ、利用者が和み一人きりではないという安心感をいただけるように工夫しています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みのある知人、友人などがいつでも訪れを歓迎いたします。行事等をお便りでお誘いしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	レクリエーション、調理、洗濯たたみ、掃除、ゴミ集め、買い物等を日常生活で支え合い、映画鑑賞、音楽療法の交流を持ち仲間意識を抱けるように工夫しています。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	お便りやゆう新聞発行で事業所の近況を報告しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプランの見直しモニタリングを実施しています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ケアプランに基づくモニタリングを実施し、ご本人の意向を把握確認しています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日勤帯から夜勤帯(24時間)見守り、サービス提供を行っています が、その人への観察は、主に言動、排泄、水分食事の摂取量、福祉、健康管理等について行います。それらを個人の介護記録に記録されます。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	毎月1回の定例会議、他カンファレンスで意見交換しながら、モニタリング、ケアプラン作成に当たっての情報交換をしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	不定期にその都度変化が生じた時点でカンファレンスにより、話し合い変更をする。ご家族がその時に参加できないこともあります。ただ訪問する機会を持って検討しています。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者ひとり一人の個人記録を記載し、申し送りやカンファレンスで情報を共有し一環した対応を実践しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	知人、ご家族等の面会については、時間制限することなく要望に応じています。また宿泊については別部屋を用意しお泊りいただいています。デイサービスの利用者さんとの交流を自然なかたちで行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	自治会のイベントや祭り、子ども吹奏楽団、太鼓演奏、よさこい祭りに見学参加しています。教育機関では東川高校3級ヘルパーの講義にボランティアとして参加しています。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他事業所のケアマネジャーと利用者サービスについて連携を持ち話し合っています。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	包括支援センターにおいて、連絡協議会を定期的に設け学習会、情報交換、連携を図っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	常に看護師が医療協力機関と連携を図り定期的受診で健康管理を行っています。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	密に連携、相談をして治療が継続または問題が生じないように対応しています		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	。常勤で看護師が配置していることから健康相談や医療受診への対応を行っています。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	お便りやゆう新聞発行で事業所の近況を報告しています。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ご家族とご本人、医師で十分な話し合いをし、今後の治療方針を看護、介護職全員に共有して一環した介護の対応に努めています。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	。常勤で看護師が配置していることから健康相談や医療受診または病院でのカンファレンス参加し、医師、ご家族との意見などを踏まえて、スタッフとプランを共有して対応しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	ご家族の情報により、馴染みのある物、また習慣になっていること等をこれまでの生活の延長線上のこととして自立・自律ができるように支援しています。ご家族協力によっては、面会をできるだけ多くしていただいております。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	定例会議やカンファレンス、日頃の話し合い等から、職員同士で情報を共有し利用者を尊重した言動や行動に配慮しています。また記録等も所定の書棚の鍵のかかる場所に保管している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	日頃から利用者と話したり、表現や言動を観察して、その人の思いや気持ちを理解できるように努めています。また利用者が表現しやすいように信頼関係をよりよく築けるように努めていきたい。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者のその日の希望をお尋ねして支援には、認知症状の程度によっては、難しいことがあります。また日常生活の支援として規則正しい生活を営むことを基本にしていますので、スタッフの誘導か、お誘いするというサポートになります。当事業所で注意していることは、義務的、情性的にならないように、利用者の表情や言動をみて生活の支援をしています。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	利用者(一部)の希望に沿って理容、美容室へ外出してしています。その他状況や希望を把握し、ご本人やご家族とも話し合いながら洋服、散髪等のおしゃれを楽しんでいます。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	家庭的な雰囲気をつくれるように、利用者と職員と一緒に調理したり、食器を準備、洗い、片付けを行っています。季節に合わせてお菓子づくり等も一緒に楽しめるように支援しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	ご本人の持病や健康状態に合わせて、希望を考慮しながら一緒に買い物へ行ったり、購入したりしながら、楽しめるように支援しています。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	基本的にはトイレでの排泄を行っており、利用者それぞれの自立度習慣を把握し、声かけや介助を行っています。場合によってはリハビリパンツや尿取りパットを使用しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	それぞれの入浴リズムや健康状態等を配慮しながら、安心して休んでいただけるように声かけ見守りを行っています。		入浴時は一人ずつ、ゆったりと気兼ねなく入れるように対応していますがどうしても時間帯が限られるので利用者の希望に添えるように努力したい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	それぞれの生活リズムや健康状態等を配慮しながら、安心して休んでいただけるように声かけ見守りを行っています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	日常、一人ひとり話しの中で観察する内容から趣味や特技等を把握し個々人のその力を生かせるように、調理、清掃、演芸、手芸等を通して喜びや達成感を抱けるように、これらが張りのある生活と生きる活力がもてるように支援しています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者のそれぞれの理解力に合わせて、お金の所持金や管理を考慮し、ご本人が管理できない場合でも話し合いながら出来るだけ、希望に沿って買い物に行ったり物品を購入したり支援しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	町内や公園への散歩、敷地内の庭で外気浴、畑仕事、買い物等で利用者の要望で外出を支援しています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	夏祭りや収穫祭、お花見、紅葉狩り等、季節を感じていただけるようにイベントを企画実施しています。またご家族やご本人の希望に沿っていつでも一緒に外出できるように支援しています。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話したり、はがき等を用意して支援しています。またご本人が困難な場合は電話を取り継いだり、代筆をして支援しています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面接時や電話等での近況報告、新聞発行、行事等の案内参加により、親睦を図り、いつでも気軽に立ち寄っていただけるように努めています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	地域包括支援での学習会や道推進虐待防止研修、拘束防止推進会研修に参加し、学んでことを定例会でスタッフに広げ、職員の意識を高めています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵をかける事は拘束の一つであることは、職員全員が理解している。徘徊により外出する危険のある利用者には職員同士で連携を取りながら、見守り、声かけを徹底して取り組んでいます。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中はユニットのリーダーが中心に利用者の行動や居場所を把握している。居室内に居る場合も状況等を見ながら、声かけ、見守りを行っています。夜間も職員2人体制の巡回により危険がないように対応し記録をして確認をしています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	刃物や張り等は一定の場所に保管しており、使用する際はスタッフが見守りの上で利用しています。管理点検は必ず定期的に実施しています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	共有スペースには、常に職員が配置しているので、食事、福祉、行動等には見守り、声かけしご本人が出来ない事には介助し対応しています。居室において転倒等の危険がある際は、コールの利用や鈴の音を設け声かけ、目配りをし事故防止に努めています。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	講習会の参加や勉強会の実施により、全ての職員がしっかりと対応できるように知識・技術向上のために努め取り組んでいます。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	定期的に防災火災訓練を年4回実施、利用者が安心して暮らせるように毎日防火点検をしています。全ての職員が連携し災害行動ができるように努めています。		
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	加齢や身体的機能低下により身体介護の支援、認知症によって起こりうる問題行動に関して、ご家族と話し合いの基で対応を検討しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルチェック、日中夜間を通して利用者の様子行動等を観察し異変等に気づいたときは、ホーム長看護師に報告を実施しています。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬チェック表により、服薬の見守りや確認は行っているが全て薬の内容までは理解していない職員が多いので資料等を日頃、目にするように説明、指導しています。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	毎朝食は玄米で繊維性の野菜を豊富に調理しています。排便チェック表や毎日の排泄の状況を観察、把握し食事、水分の摂取、ラジオ体操、歩行や運動に声かけて行っています。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、歯磨き、声かけや見守りを徹底し実施しています。ご本人が出来ない部分は介助にて行い。洗浄剤を使用し自己管理ができない方はお預かり管理しています。スタッフの一人に歯科衛生士がいることから、指導を受けて共通理解のもとでケアを実施しています。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事吸いビンチェック表に記入、糖尿病や塩分制限等の方の食事メニューの変更調理を利用者の健康状態を把握して実施している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	疥癬、ノロウイルスについてマニュアル資料等があり、理解し対応することが出来るように勉強会で学習しています。感染流行の兆しがある時はうがい、手洗い、インフルエンザの予防接種を実施。またホーム内、居室内の空気洗浄加湿を取り付けています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	手洗いや調理用具、布巾等の滅菌、消毒を日頃より行っており、冷蔵庫等の賞味期限の確認や週末の食材調達により、常に新鮮で安全な食材確保に努めています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関付近や建物周囲等には花や植物等で飾り、温かい雰囲気をつくり駐車スペースの確保。玄関は、施錠せず玄関脇にベンチを設置し、いつでも立ち寄ることができるようにしています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	余計な物を置かず、歩行やくつろぎの邪魔にならないように配慮し、植物を置いたり、季節に合わせた作品を展示したり落ち着いたように工夫しています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	談話室や食事、廊下、中庭前等にソファや椅子を設置して利用者同士で談笑したり、一人ひとりがくつろげる空間をつくりは配慮しています。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者の居室は馴染みものを配置し思い思いの過ごし方をしています。ご家族が面会に来られてもくつろげる場を提供しています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度計や湿度計を確認し暖房設備や換気調整で利用者が快適に過ごせるように努めています。汚物物の扱いは、必ず新聞に包み一回毎に所定の場所に処理してホーム内の異臭を防止換気調整しています		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	視界を避けるものや危険にあたるものがないか、確認し広く安全な空間づくりを努め、かつ職員が利用者の行動を見守りしやすい状況をつくるように意識しています。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレの場所がわかるように、大きな文字や写真を表示したり、それぞれの居室には、ご本人やご家族の写真など愛着あるものを展示して安心して暮らすことができるように支援しています。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	畑の農作物や花を植えたり観賞してしたりしています。また窓下に植樹している果物木は、収穫を楽しみ賞味したり、畑の野菜を収穫して召し上がっています。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	☐ ①ほぼ全ての利用者 ☐ ②利用者の2/3くらい ☐ ③利用者の1/3くらい ☐ ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	☐ ①毎日ある ☐ ②数日に1回程度ある ☐ ③たまにある ☐ ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	☐ ①ほぼ全ての利用者 ☐ ②利用者の2/3くらい ☐ ③利用者の1/3くらい ☐ ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	☐ ①ほぼ全ての利用者 ☐ ②利用者の2/3くらい ☐ ③利用者の1/3くらい ☐ ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	☐ ①ほぼ全ての利用者 ☐ ②利用者の2/3くらい ☐ ③利用者の1/3くらい ☐ ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	☐ ①ほぼ全ての利用者 ☐ ②利用者の2/3くらい ☐ ③利用者の1/3くらい ☐ ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	☐ ①ほぼ全ての利用者 ☐ ②利用者の2/3くらい ☐ ③利用者の1/3くらい ☐ ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	☐ ①ほぼ全ての家族 ☐ ②家族の2/3くらい ☐ ③家族の1/3くらい ☐ ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	☐ ①ほぼ毎日のように ☐ ②数日に1回程度 ☐ ③たまに ☐ ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	☐ ①大いに増えている ☐ ②少しずつ増えている ☐ ③あまり増えていない ☐ ④全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	☐ ①ほぼ全ての職員が ☐ ②職員の2/3くらいが ☐ ③職員の1/3くらいが ☐ ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐ ①ほぼ全ての利用者が ☐ ②利用者の2/3くらいが ☐ ③利用者の1/3くらいが ☐ ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐ ①ほぼ全ての家族等が ☐ ②家族等の2/3くらいが ☐ ③家族等の1/3くらいが ☐ ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載）
 利用者、家族との信頼関係が絶大であると考え、利用者の日々の様子を報告、説明を伝えています。またご家族の訪問の機会を作り、面会して利用者との交流を図る事に努めています。その他に病気について不安を抱かないように医療と連携とり、いつでも医師の相談と往診の体制を努めています。